

第13回 統計品質改善会議 議事概要

- 日 時：令和6年12月20日（金）14:00～15:00
- 場 所：中央合同庁舎2号館 14階 情報政策本部 会議室A B
- 議事概要：以下のとおり

【資料の説明】

以下の各議事に関する資料を事務局が説明

- 議事1 建設工事受注動態統計調査の誤報告対策に関する中間整理（案）
- 議事2 令和5年度建設工事進捗率調査（前回調査からの変更事項の評価）

【構成員からの主なご発言】

<議事1：建設工事受注動態統計調査の誤報告対策に関する中間整理（案）>

- 不安定な推計値となる場合に平均的な値になるよう補正すると記載されているが、事前にエラーチェックを行うので、このような補正はあまり行われないう理解であり、セーフティーネットのような役割だと思う。また、調査票の記入段階における留意から始まり、エラーデータの特定まで一連の対応が可能であることに好印象を持った。
- 新しいオンラインシステムによる回答割合が高くなることにより、エラーチェックの効果がより発揮するので、新システムによるオンライン回答率が上がらない場合の対策を考えるなど、その回答率が上がるよう努めていただきたい。
- 誤報告事案に関しては、本年夏から毎月議論してきており、今回およその整理が出来たと認識している。回答段階での誤報告をいかに減らすかということが各委員の共通認識である。以前よりも的確な審査内容になっており、今後はより安定した推計値になると考えている。
- 「国土交通省統計改革プラン」にも明記されているように、統計業務の不断の改善を進めていくことが重要である。その中で標本設計についても検討を深めていければ良い。ぜひこの会議を活用してほしい。
- 今般の誤報告事案を契機として調査票を見直しているが、回答者がより回答しやすくなるよう絶えず改善していくことが必要である。
- 新しいオンライン回答システムにおいて、どういう箇所でアラートが生じたのかを整理するとともに、疑義照会や電話の問い合わせ等においてどのような項目が多かったかなどを集計し、それらを踏まえてアラート機能を継続的に更新して頂きたい。
- 今回の整理に沿って今後対応していくことになれば、誤報告対策は確実なものになり、安定的な推計ができると考えている。一般論として公的統計には高い信頼性が求められ、政策の基盤になるものであることから、「国土交通省統計改革プラン」に記載されている

ように、「開かれ、使われ、改善し続ける統計」を目標として、国土交通省においては引き続き取り組んでいただきたい。

- この議題については、各委員によるご意見の趣旨を考慮し、中間整理案の内容に修正が必要な場合は対応するが、その扱いは座長に一任とさせていただきたい。

<議事2：令和5年度建設工事進捗率調査（前回調査からの変更事項の評価）>

- 今回の資料は素晴らしくまとまっており、これまでの検討における膨大な作業を良くまとめていただいた。調査対象の工事件数を増やした結果、有効回答件数が増加した点も評価できる。

以上